

内郷村報の 六大使命

一、政黨政治を超越して、村力充實主義を標榜す。二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を圖り、總親和總努力の實現を期す。三、本村共済事業の徹底を期す。

四、村内の善美実行を表彰し、且之を獎勵す。五、本村に本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

天法人 順則 二 從 人 則 三 順 則 二 從 人 則

銃後の傷病兵!

横向温泉中の湯

大内民恵

一、緒言

十月五日、出縣すべく郷里の本宅に(安達郡杉田村)に歸る。老妻は足の先が、老妹(同郡新殿村に嫁したる)は手の先が痺れるので、横向温泉中の湯(耶麻郡吾妻村)に湯治に行くといふ。

予は又丁度よく若松に用事があったので、之が案内旁々同行することとなり、横向に二泊、若松に一泊して、歸宅したのであった。これはその紀行である。

二、亡長妹の展墓

十月七日晴。一行三人二番上りバスに搭乘。コスモスの廻り咲き道の家沿道のそらした光景のながれを通過して、郡山驛についたのは、十時半頃であつた。磐越西線の發車迄には、一時間余を待たねばならぬ。

この機を利用して、遊いて二十餘年も経つた、亡妹の墓参を、併せて其嫁家に久潤を叙さうといふことになり、先づ善導寺の其墓所に参じ、心からなる敬禮回向をすし、住職河野師に敬意を表したるに、マアと客間に語せられ、詳々盡きざる有り難き御法話!時計を見れば、發車迄には十分分をのこ

縣。郡協力會議 縣に於ては九月十六、十七日の兩日縣議事堂に、郡に於ては九月二十二日平公會堂に開會。者は顧問と

君を以て始めとするので、全山の人氣を湧かして居る。 炭 強調期間實績 八、九兩月にわたり全國

炭 小名濱坑着炭 倉本倉次郎坑長指揮の下に鋭意其作業を續けつゝ、あつた磐炭の同坑では、一年半の成績が報いられ、九月

十月五日午前八時より、住吉方は高坂國民學校、綴井内に礦業所方は綴山神社境内に於て施行、受檢者約三五〇名。成績調査中。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の職務は子孫に傳ふる遺言を兼ねるものなり

本紙定價一月一元 發行所 大内民恵 印刷所 大内民恵

村内出身の將兵各位!

聖戰四年有餘、各位が、海に陸に、將た寒熱兩地帯に、御奮闘下さることを思ふ時に、銃後の私共は、たゞこれ感激あるのみであつて、只管に各位の武運長久を、國策完遂を、神かけて祈願いたして居る次第なのであります。次いで銃後に於ては、本紙當欄にも、其一端を書きまじした様に、至純至誠、以て各位の御苦勞と相呼應して、其職域に専念され居ることを期すから、後願の御憂ひなく、存分御奉公下さる様、切に御願申上げます。

それから私に、事變勃發以來、本紙を通じて、幾分でも村内の状況を、御知らせいたしたことを存じて、大體各位の數文を増刷して、呈したて居つたのでありましたが、大政翼賛下の我村に於ては、三十の部落を組織して、時局下の各般にわたつて、夫々の活躍を開始するところになりましたので、此度別項掲載の通り、各會長の各位に御調査を煩ひました結果、其概数を確めることが出来ましたので、今後には毎號必ず各位の御手許に届きます様、皆誠と協力いたした折には、御返信下さる様、特に御願申上げます。其一部を本紙に掲載するは勿論、各位の御勤勞を永久に保存する様に致したいものと、念願いたして居ります。以上御案内を兼ねて懇願いたします。拜具

昭和十六年九月二十五日 内郷村報社 大内民恵

三、我等も老いたる哉

車中は相變らざる大混雑!辛うじて座席を見出す。妻と相對してまむかひの妻のおつむを眺むれば、げに美しや儼月の影さ悪口をたゞき、三人笑ひのける

かくいふ我輩も、いつしか其黒髪白髪は、晴れ渡つて正にこれ満月!かくする處に現れたのが、縣下組合界の重鎮にして、同族同年の安田宇一君! (郡山より熱海迄同車) 其月の程度は、我等と逡巡はないが、腰の何とやら号は、我等よりは以上と思はする風情!イヤハヤこれにはさばかり、歡談雜談を交はす、我等も老いたる哉である

四、紅葉の蕾期?

かくて川桁驛についたのは二時過ぎ、直ちに沼尻行の「輕便」に乗る。「輕便」は「悠便」なりでカグスタと悠々たりだ。左に磐梯白布、朝木、右に大瀧、川桁、布森等々の連山を遠望し、黄然せる稻田の中を、北東に向つて登る。さ約四里にして、其終点沼尻驛に着く。古人は、如月(きさらぎ)

うな、清き流れ、織なす錦を縫ふて、いよよと目送す湯の宿に着いたのは、夕刻であつた。

五、横向温泉

安達太良、東吾妻、相峯等の連峯山脈に圍まれた、谷間窪地に開かれたのが横向温泉で、縣道を狭んで、我「中の湯」は南上手に瀧川屋は北下手にあるのである。「瀧川屋」は一切の設備が、比較的整ふて居るが、「中の湯」は以

六、月光下の裸身群像

予は翌八日拂曉、一浴せんと浴場に至る。折しも差し入る有明の月光に照らされつゝ、清冽なる温泉につかる、筋骨逞まじき裸身群像に當面し、一幅の名畫に接するが如き感にうたれ、嘆賞しはし與謝野晶子女史のわがひたる寒翠石の湯がに月をのさし入る飯坂の里を思ひ出し、予自らは山の月湯ぶれの波に碎け、り山の湯の月に語れる人等聲を賦句り、その畫面を破る。この惜しさに、其儘引きかへさんかと思つたが、潑物の癡巻をまさふて行つた予、轉た寒冷を覺ゆるので、思ひきつて予も亦、其畫中に加はり、群像の會話に耳をかたむける。

以下二面へ續く!

以上二面へ續く!

六、月光下の裸身群像

予は翌八日拂曉、一浴せんと浴場に至る。折しも差し入る有明の月光に照らされつゝ、清冽なる温泉につかる、筋骨逞まじき裸身群像に當面し、一幅の名畫に接するが如き感にうたれ、嘆賞しはし與謝野晶子女史のわがひたる寒翠石の湯がに月をのさし入る飯坂の里を思ひ出し、予自らは山の月湯ぶれの波に碎け、り山の湯の月に語れる人等聲を賦句り、その畫面を破る。この惜しさに、其儘引きかへさんかと思つたが、潑物の癡巻をまさふて行つた予、轉た寒冷を覺ゆるので、思ひきつて予も亦、其畫中に加はり、群像の會話に耳をかたむける。

以上二面へ續く!

六、月光下の裸身群像

予は翌八日拂曉、一浴せんと浴場に至る。折しも差し入る有明の月光に照らされつゝ、清冽なる温泉につかる、筋骨逞まじき裸身群像に當面し、一幅の名畫に接するが如き感にうたれ、嘆賞しはし與謝野晶子女史のわがひたる寒翠石の湯がに月をのさし入る飯坂の里を思ひ出し、予自らは山の月湯ぶれの波に碎け、り山の湯の月に語れる人等聲を賦句り、その畫面を破る。この惜しさに、其儘引きかへさんかと思つたが、潑物の癡巻をまさふて行つた予、轉た寒冷を覺ゆるので、思ひきつて予も亦、其畫中に加はり、群像の會話に耳をかたむける。

以上二面へ續く!

一面より續く一
其語は、晩秋の結果、稲作の事、出征せる子弟や夫の上に及び、それにしても一日も早く體をよくし、丈夫になつて大に働き、後顧の憂なく、存分に御奉公せよと云ふは、いかゞいふのが、其結論なのである。手は斯く、心は思はず頭がさがり、目かじらあつくなつたのを覺えたのであつた。

七、中の湯常會
由來予は、旅行中其宿帳へは「平民」さかぐの如く、矢張り「平民」さかぐの如くしてあつたのであるが、いさゝか擧き、拂曉月下に於ける裸身群像の各位を中心とせ、當家の浴客諸子に對して、微衷を披瀝して、感謝激勵の意を表した。いさゝか擧が起つたので、宿の主人に、予は實は、大政翼賛會支部の關係の者であるが、これ「中の湯」の理由で、特に「中の湯常會」を開きたいと思ふから承知してくれませんか、及其旨を駐在所へも、一應届出てくれる様に依頼し、何れも其快諾を得て、全浴客に其旨を通じ、其日の午後二時より、二階の二間を打ちぬいて、外出者以外全部(五十余人)會合、型の如く儀禮を行ひ、先づ常會を開催するに至つた。動機を語り、感激感謝の辭を述べ、日本精神の眞髓、大政翼賛の意義組織等の大要を説き、協心戮力、國策遂行に邁進すべきことを、誓ひ合つたのであつた。

八、障子、糸つなぎ
妻は毛糸のチヨツキ編み、妹はホソリ糸のチヨツキ編みに余念がなく、予は讀書の傍ら、室内の整理や掃除を受持つ。見れば廊下に面した障子が破れて居つて、風がはいる。こま形しく、体裁も亦頗るよろしくない。幸ひにも部屋への入口の障子が、糊で刷毛が置かれてあつたのを發見したので、帳場から紙をもちつて来て、何も奉仕させず、我輩自ら障子の切り取りをやり、妻と妹とから笑はれ、主人や女中からは恐縮された。宿屋の障子張りには、我輩生れて始めての藝當！恐らく宿屋でも、空前の事であつたのであらう。阿々。

九、中の澤温泉若松市
九日晴、午前十一時一番バスで若松に向ふべく出發、沼尻に二時間余の時間があつたので、約五丁を距つる中の澤の共同風呂に一浴を試み、例の「悠便」で沿道の風光に別れを告げ、川桁驛に出る。若松に着いたのは夕暮であつた。車夫の案内するまゝ、中山旅館に投じ、舊友安井彌精兄に敬意を表し、又其案内で故秋月次三翁の靈を弔ひ、翌朝は未明に若松城址を一巡、處々の立札によつて、維新當時を追憶し、吉村五郎翁を訪れて、松風會を中心に、引退教育家の使命等に就いて大いに談じ、後れての約束通り正八時、予の携はる海外協會の理事である、岩崎光衛君を訪問、時局に當面する「會」の事業に關する各般の打合せをなした。

教育制度改革概論

口、遺族の方々に就いて批評がましい話等をする者があつたらその不心得を諭すこと。

中からは恐縮された。宿屋の障子張りには、我輩生れて始めての藝當！恐らく宿屋でも、空前の事であつたのであらう。阿々。

十、安田家 熱海温泉
安田君は前述の通り、予が一族であつて、其曾祖父は我大内家の出である。令弟夫妻が早逝したので、其遺業たる「通運」を若き令姪が助けて、之が經營にあたる傍ら、數十年來其中心となつて、今日の盛運を見た組合の、理事長として寸暇なく活躍、縣下に籠を垂れて居るのである。

十一、結語
四日三泊の行、要件、禮儀以外に、しかも思はざる有意義のお土産、將た得易からざる、思ひ出の種を拾つたことは、もつちの仕合せであつた。

一、英靈に對して
殉國の英靈に對しては永く感謝の念を以て心からの慰靈を行ふこと。

軍人援護に關し部落會町内會隣組を通じ徹底を圖るべき参考例

口、常二親身の相談相手として、勤勞奉仕によつて努力の不足を補ひ慰安と激勵を加ふること。

十二、慰問状
八、成るべく部落會、町内會等協同して勤勞奉仕を以つて墓地の清掃をする。二、傷病將兵に對する慰問状
一、慰問状
軍人として病床の身ほど惱ましいものはないでせう。之を慰め之を元氣づけることは我々のなすべきならば、責務であります。

三、傷病軍人に對する接遇
傷病の勇士に對しては敬意と援護の眞心を盡す慣習を作ること。

四、出征將兵に對して
一、慰問袋慰問状に就て
心からなる慰問状慰問袋は戦線の勇士の慰安となり奮闘の源泉となり得ます。

五、遺族の家に對する儀禮
國家のため或は愛兒を或は夫を父を捧げて涙をかくすやるせない遺族の方々に、暖い同情と感謝とを捧げる。

日本評論社

口、遺族の方々に就いて批評がましい話等をする者があつたらその不心得を諭すこと。

六、傷病軍人に對して批評がましい話等をするものがあつた場合は其の不心得を諭すこと。

七、遺族の家に對する儀禮
國家のため或は愛兒を或は夫を父を捧げて涙をかくすやるせない遺族の方々に、暖い同情と感謝とを捧げる。

八、出征將兵に對して
一、慰問袋慰問状に就て
心からなる慰問状慰問袋は戦線の勇士の慰安となり奮闘の源泉となり得ます。

九、遺族の家に對する儀禮
國家のため或は愛兒を或は夫を父を捧げて涙をかくすやるせない遺族の方々に、暖い同情と感謝とを捧げる。

内郷村報社

口、遺族の方々に就いて批評がましい話等をする者があつたらその不心得を諭すこと。

十、出征將兵に對して
一、慰問袋慰問状に就て
心からなる慰問状慰問袋は戦線の勇士の慰安となり奮闘の源泉となり得ます。

十一、遺族の家に對する儀禮
國家のため或は愛兒を或は夫を父を捧げて涙をかくすやるせない遺族の方々に、暖い同情と感謝とを捧げる。

十二、出征將兵に對して
一、慰問袋慰問状に就て
心からなる慰問状慰問袋は戦線の勇士の慰安となり奮闘の源泉となり得ます。

十三、遺族の家に對する儀禮
國家のため或は愛兒を或は夫を父を捧げて涙をかくすやるせない遺族の方々に、暖い同情と感謝とを捧げる。

日本評論社

口、遺族の方々に就いて批評がましい話等をする者があつたらその不心得を諭すこと。

戰歿勇士の墓參記

方面委員 田口淳三

今回實施の統後奉公強化週間行事の一として、我等方面委員、軍人遺族族身上相談人は、各受持區内に於ける戰歿軍人の墓參をなすこととなり、余は週間最終の十月七日午後大字御台境の共同墓地に故高木太吉君並に今次事變に名譽の戦死を遂げられたる、故久野春美君の墓前に類づき、英靈に感謝の誠を捧げたり。久野君の墓碑は本年九月十二日の命日に建立せしものにして、正面には金色燦然たる星章の下に、官姓名を刻し、左側に陸軍中將茨洲立兵書あり、秋晴の日の光を受け、墓碑の星章は一際映ひ、無言の内に武勳を物語るが如く、自ら頭の下るを覺ゆ

村常會委員會

九月二十四日村議事堂に於て、新たに選任せられたる三十名の常會長も之に加はつて開會。沼田村長の各種傳達、大内委員の表による翼賛會組織系統の説明、黒參與の報徳講話があつた。

竹ノ内部落常會

九月二十七日午後七時より、宮國民學校に於て發會式舉行、嚴肅なる儀禮後、諸般の協議を行ひ、大内顧問の講話があつた。

宮澤部落班長會

九月二十五日午後七時より大内宅に開會、松本會長以下各班長出席、夫々下達上通あり、各種の審議を行ひ大内顧問の講話があつた

縣、郡協力會議

縣に於ては九月十六、十七日の兩日縣議事堂に、郡に於ては九月二十二日平公會堂に開會。者は顧問と

して出席、爾來縣下各所に其結果を説明して、之が協力に努むる處あつた。

警 炭半島從業員

知事より表彰

警城炭礦の相馬三郎事張壽中君(三七)は過般白水川に溺死せんとした小田熊記坊(三三)を勇敢にも挺身之を救助し、此程江邊知事より表彰

警 炭礦業所に於ける

勤勞報國隊の答辭 只今我等に對し身に餘る御言葉を戴き厚く御禮を申し上げます。願ひれば任期は夢の如くに過ぎ去りました。我等は係員初め從業員方々も御親切なる御指導にあつたり何とぞ礦具の名稱も覺え作業にも興味をもつ様になりまして今日退社するのは誠に名殘惜しい氣がいたします。然し歸郷後は早々家業を片付けて再び來山して此馴れた腕を以て増産に奮闘する考でありますから相變らず御指導下さる様御願ひいたします。先は甚だ簡單で

警 炭慰安會

警城炭礦にては、生産擴充及出稼向上に格段の努力をしたる、全山從業員並に其家族を慰安する爲、特に東京より有益にしてしかも面白き各種フィルムを取寄せ、左記日程により映畫會を催うした。

警 小名濱坑着炭

倉本倉次郎坑長指揮の下に鋭意其作業を續けつゝ、あつた警炭の同坑では、一年半の産出が報いられ、九月

警 炭體力檢定

十月五日午前八時より、住吉方は高坂國民學校、綴並に礦業所方は綴山神社境内に於て施行、受檢者約三五〇名。成績調査中。

炭礦生産力擴充強調週期に於ける、警城炭礦の實績は左の通りであつた。

「八月」

- 住宅一四三班中 入賞八〇班
- 察 三九班中 全 一三三班
- 優勝旗獲得常會
- 副賞金一對長倉第三部落常會 (隣保數九班)
- 第二位 町田常會
- 第三位 峯平常會
- 「九月」
- 住宅 入賞一〇一班
- 察 入賞 一三三班
- 優勝旗獲得常會
- 副賞金一封長倉第三部落常會
- 優勝副賞金一封御殿第三部落常會
- 綴内町常會

「内郷村報」を

戰線將兵に贈呈

本社に於ては、別項記載の通り、戰線に於ける本村出身將兵各位に本紙を贈呈すべく、村内三十部落會會長に、其數の調査方を依頼し

「乙二」十旬集抄 (白石)

嫁取りも稻刈濟んでから、こゝに綴園故郷の稻の便りを聞くもよし麻吉鈴虫も月の隣の賑より 千歳鈴虫の聲を結べる紅き紐 祥三思ひでは鈴虫より秋の雲もさぞ秋の雲さへきり立てり朴大樹 眞秋の雲薄くかゝりて青き空 余十馬欄のの子供は小さき秋の雲貞二

警 炭體力檢定

たる處、續々回答ありたるを以て、重ねて會長を煩はして、夫々家庭を通じて贈呈することとした。因みに宮澤、代部落會に於ては、會より夫々戰地へ直送せられた。

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内外各團體の活動状況を報導し併せて其協調を圖り、總和と總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善美善行を表彰し、且之を奨勵す。
- 五、本村と本村出身者及本村關係者の聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報 天法人則 順ナ則

二月の花よりも、紅葉を賞したものであるが、四邊視界の紅葉は、花に例へば、正に當りともいふべき薄紅葉！却つて生々の景趣に富むの感ありであつた。

前幾多の選があつた後、引き受けたのが、當年此地方切つての木炭業者であつた、一瀬吉五郎(志)翁で、爾來十年、其子直治(國)其孫正直(三)兩君の三夫婦が

る。其湯は透明な微温湯で、五分間乃至十分間も漬からなければ、上がられぬが、上つたあは體があたまり、それで絶對風邪は引かないといふのである。効能は婦

本紙發行は内一家の事業にして、其の利益は子孫に遺する遺言を兼ねるものなり

本紙定價 一冊五圓 一年五十五圓 半年三十圓 半年十五圓 半年十圓 半年五圓 半年三圓 半年二圓 半年一圓 半年五圓 半年三圓 半年二圓 半年一圓